



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.37 2023. 7. 30 発行

「聖霊を信じる」

コリントの信徒への手紙一12章1～3節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

キリスト教会が大切にしてきた信仰の基本に三要文(さんようもん)と呼ばれる「十戒、主の祈り、使徒信条」があります。わたしたちは「使徒信条」の学びを続けています。これは、聖書に基づいて教会が何を信じているのかをまとめた大切な告白です。そして、この「使徒信条」によって私たちは聖書を正しく理解できます。聖書とは切り離せない告白なのです。この告白は、まず父なる神さまを信じると告白して、次に御子イエスさまを信じると告白して、さらに聖霊を信じると告白します。

聖霊なる神さま、目には見えませんが、イエスさまを救い主と信じるわたしたちと共に歩んでくださる神さまとしていつも私たちに働きかけ、わたしたちを新しく造り変えてくださいます。傍らにいて、慰め主となってくださるのです。パウロさんがコリントの教会に宛てた手紙の中で、「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えない」と告げています。教会に集う人々には、それぞれに神さまから与えられた賜物があり、それぞれが異なる賜物を受けていますが、それほど違っていても教会に集う人々に共通するのが「イエスさまは主なり(すべてについてイエスさまがわたしのご主人です)」という信仰を告白していることでした。自分が自分のご主人ではなく、イエスさまがご主人というこの告白は、聖霊の働きなしにはできないとパウロさんは宣言しました。

クリスチャンになったら、何も迷いがなくなるかと言うとそんなことはありません。神さまに従うために、何をどう選べばよいか迷うことがあります。でもイエスさまは「聖霊がその時教えてくださる」(ルカ12:11-12)とおっしゃいました。お祈りも聖霊の導きがあってこそ祈れるのです。聖霊の導きは大声ではなく、小さなささやくような声と言われます。神さまに向けて心を柔らかかにして、耳を澄まして、聖霊の細き声を聴き分けて、神さまにしたがう生活を続けたいと思います。



堀内長老からのメッセージ

平和について学び、考える8月に読むのにふさわしい1冊の書物を紹介します。本の題名は『川田文子さんのこと』です。自由学園(東久留米市)で学ぶ双子の姉妹、山澤遙乃さん、綾乃さんが書かれた本です。川田文子さんは同じく自由学園の生徒で戦時中学んでいました。しかし、作業で行っていた(「学徒動員」といいます)飛行機工場で爆撃のため1944年12月3日に亡くなりました。この本では、漫画や文章によって、川田文子さんが亡くなる時のこと、その死を今の時代を生きる私たちはどう受け止め、考えるべきかを語っています。川田文子さんと広島原爆で亡くなった吉岡豊香さんの慰霊碑が自由学園にあります。そこには「地には平和」(ルカ福音書2章14節)の言葉があります。その平和と正反対のできごとがこの近く、武蔵野市の北部一帯で79年前にあったのです。本をまとめた山澤さんは信徒の友8月号でこのように語っています。「いま、戦争を経験した方が減っています。戦争を止める人がいなくなってしまうのではないかと思います。そのためには今を生きる私たちが戦争の記憶を引き継いでいかなければなりません」。